

宗像警察署長 原田 哲也

宗像保護区保護司会の皆さまにおかれましては、コロナ禍において、様々な社会奉仕活動が自粛される中、社会奉仕の精神で犯罪や非行に走った人々の更生と地域連携による犯罪や非行防止等に、日々ご尽力されておられることに敬意を表する次第です。

さて、宗像警察署では、コロナと向き合いながら治安維持が停滞しないよう署員一丸となり各種警察活動を推進中のごとであります。犯罪を生み出さない街づくりは私も警察の力だけでない街のものではありません。地域住民や関係機関の皆様に加え、保護司の皆様も社会の一隅を照らす地道な活動によるお力添えが不可欠であります。

今後ともご理解ご協力をお願い申し上げますとともに、貴会の益々のご発展と保護司の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

犯罪抑止に向けて



発行責任者 日隈 一憲  
宗像保護区保護司会  
事務局 宗像保護区更生保護  
サポートセンター内  
宗像市東郷2丁目  
1番43号201  
TEL 0940-72-1931  
FAX 0940-72-1932

新型コロナ禍の活動

宗像保護区保護司会 会長 日隈 一憲

新春を迎え新型コロナウイルス禍のない平穏な生活を送れることを願って止みません。一昨年来保護司活動が制約される中、新人保護司との交流・研修もままならず不安に感じていたところ、研修部会から「保護司の手引き」の作成提案が有りました。部会員の努力が実り手引書が完成しました。今後の保護司活動に役立てて参ります。「社明運動」の一環として行っている小学校への出前授業は、コロナの影響で三校の要望に対して自由ヶ丘小学校しか出来なかつたのは残念でした。「社会を明るくする運動」の趣旨は、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全・安心な明るい社会を築こうとする運動です。地域の皆様にもなお一層のご理解とご協力をお願いいたします。



宗像警察署長 原田 哲也



宗像保護区保護司会 会長 日隈 一憲

令和三年度 福岡県 更生保護功労表彰受章者

- 全国保護司連盟理事長表彰
  - 眞鍋 信博 (宗像市)
- 九州地方保護司連盟会長表彰
  - 石松 巧 (宗像市)
  - 井土 敏明 (宗像市)
  - 田中 雅子 (福津市)
- 福岡保護観察所長表彰
  - 北野 真理子 (福津市)
  - 高山 芳文 (福津市)
  - 横山 誠 (福津市)
- 福岡県保護司会連合会会長表彰
  - 有馬 宏 (宗像市)
  - 井浦 潤也 (宗像市)
- 福岡県保護司会連合会会長感謝状(家庭功労者)
  - 濱崎 芳江 (宗像市)

保護司の異動

〔退任〕長い間ご苦勞様でした  
永山麗子(福津市) 令和三年三月六日  
井土敏明(宗像市) 令和三年十二月十三日



一日も早い日常に戻れることを願って



宗像区更生保護女性会 会長 吉田 益美

永い間ご尽力された清武会長より、令和三年五月に会長を引き継ぎました。今年もコロナ禍のため、殆どの事業を中止しているところです。

本会の会員は、宗像市三十五名、福津市二十八名の計六十三名で活動しています。主な活動は、宗像市では、宗像市保護司会からの助成で、市内の小学校新入生全員に手作りの「ストラップ」を配布。今年度は、お手玉を作った配布の予定がコロナ禍のため中断しています。また、社会を明るくする運動には「おし花の葉」を作って街頭で配布しています。福津市では、「人権啓発運動」で保育所や小学校にひまわりの種まきを、また、福津市保護司会と合同で先進地視察研修を実施しています。



私共の運動の柱は「やれる人が、やれる時に、やれる範囲でやる」と優しいものです。一日も早いコロナ禍の終息を願ってやみません。

新任保護司から



宗像市 輪竹 賢一

現在、更生保護施設で、社会福祉士として、罪を犯した人の社会復帰支援に従事しています。対象者との関わりにおいては、常に対等の立場であること、何か更生へのきっかけ作りができないかを意識して取り組んでいます。保護司としての実績はまだありませんが、先輩保護司の皆様と連携して宗像市が安全・安心で、明るい地域となるように微力を尽くして取り組む所存です。



福津市 北野 真理子

前職は、更生保護施設で薬物専門職員として勤務しておりました。現在は、薬物だけでなく様々な依存症の方達の回復を支援する施設に勤務しています。更生保護の現場で出会う対象者の方たちは、様々な生きづらさを抱えている方が多いと思います。そうした方達の生きづらさが軽減され、更生につながるように、少しでもお役に立つことができればと思っています。よろしくお願い致します。

保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって、  
一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。  
一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の予防に努めます。  
一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

宗像保護区の取り組み紹介

令和三年度総会

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため総会が開催できませんでした。今年度は、宗像ユリックスの会場で開催することができました。

今年度の重点目標は次の三点です。  
I サポートセンターの一元化を目指して機能充実  
II 関係機関・団体との連携強化  
III 目標Iは、宗像保護区は宗像支部と福津支部で構成されています。保護区の活動と支部の活動の効率化を図る取り組みでしたが、規約や活動の見直し等を図ることができました。

目標IIは、宗像保護区には、総務部会、研修部会、犯罪予防活動部会、協力組織部会の四部会があります。今年度は、研修部会が「保護司の手引き」を作成し保護司活動に貢献しました。

目標IIIは、関係機関には、更生保護女性会や警察、市役所の人権対策課、就労支援団体等があります。今年度は、特にそれぞれ市の人権担当者との今後の活動について関係を強化することができました。



更生保護サポートセンター紹介

更生保護サポートセンターとは、保護司・保護司会が、地域の関係機関・団体と連携しながら、地域での更生保護活動を行うための拠点です。その多くは保護司会が市町村や公的機関の施設の一部を借用し、開設しており、そこでは、経験豊富な「企画調整保護司」が常駐して、保護司の処遇活動に対する支援や関係機関との連携による地域ネットワークの構築等を行っています。

宗像地区では令和元年(二〇一九年)に宗像市東郷に開設しました。

**開所日時**  
曜日 毎週 火・水・木・金曜日 (祝日・盆・正月を除く)  
時間 午前10時~午後4時  
連絡 電話 0940-72-1931 FAX 0940-72-1932

編集後記

宗像保護区保護司会は、関係団体と協力して、よりその効果をあげるよう努力しています。今回は宗像警察署長及び更生保護女性会の新会長にご挨拶をいただきました。ありがとうございました。

研修部

「保護司の手引き」の作成

令和二年度は新型コロナウイルス感染拡大のため定例研修会が開催されませんでした。研修部では、新任保護司の皆さんのために、何か役立つことではないだろうかという意識を共有し、手引書を作ろうということになりました。この冊子は新任保護司だけでなく全員に役立つ冊子となり、「コロナに負けない活動」に取り組むことができました。

定例研修会報告

第I期定例研修会

〈内容〉改善更生を促進するためには、CFP(見立て)が大切です。様式の変更や処遇等について研修しました。

第II期定例研修会

〈内容〉犯罪被害について、また、更生保護施設が犯罪被害者等の立場に立つて果たすべき役割について理解を深めました。

第III期定例研修会

〈内容〉事例研究で、四名の現役保護司が事例発表を行い、処遇の在り方等について研修を深めました。

### 第71回「社会を明るくする運動」作文コンテスト受賞作品

#### 宗像保護区最優秀賞 (小学生の部)

#### 自分たちでできること

宗像市立河東西小学校  
六年 西牟田 恵登

私は、犯罪・非行のない地域づくりで自分達には何ができるのかを知るために、二十年間保護司をしている祖母に話を聞きました。保護司とは犯罪をした人、特に中学生などに寄り添って話を聞いた後、家庭訪問をしたりして立ち直るための手助けをする民間の人たちのことを言います。

祖母が保護司のボランティアをするようになったきっかけは五人の子どもを育てた経験を生かして困っている人を助けるため、軽い気持ちで始めたそうです。保護司になってから最初の十年はとにかく子どもが荒れていて、万引きや窃盗などの犯罪をした少年のところに行ってその人の話を聞いたり、時間を決めて面接などもしていたそうです。家庭訪問をすると、その家の状況が大体分かるそうです。家庭訪問をして大体の状況が分かるなんてすごいと思いました。その状況に対応した解決策を考えて手助けをする保護司の人は、少年たちのことをよく考えて行動しているのだらうなと思いました。祖母によると、「少年がする犯罪のほとんどが親に対する反抗心から始まる」そうです。保護司のボランティアは幸福も

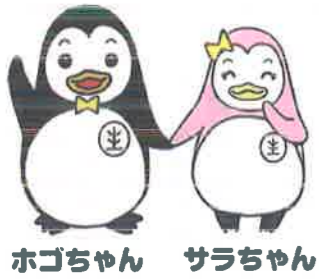
なく大変だけど、手伝いをさせてもらったことよって学んだこともたくさんあると言っていました。だから、人間が「共に生きる」ためには人と人とのつながりが大事だと思っていると教えてくれました。私はこの話を聞いて「今は私の身近なところには犯罪や非行をしている人はいないけれど、このまま犯罪・非行のない地域をつくるためにちょっと難しいけれど、祖母が教えてくれたように周りの人とのつながりを大切にして、お互いに支えあうことが大事なのかな」と思いました。だから友達や悲しんでいたら話を聞いてあげたり、学校で一緒に遊んだり、勉強をする時に協力したりして信頼できる関係を作ることが犯罪・非行のない地域をつくるために最初に私たち子どもでもできる事ではないかなと感じました。祖母から聞いたことですが、最近新しい出来事があったそうです。祖母が前、保護観察の時に担当した、病気で万引きをしようとした人がいたそうです。その人を祖母は小倉へ連れていったそうです。それから三年後の今年、



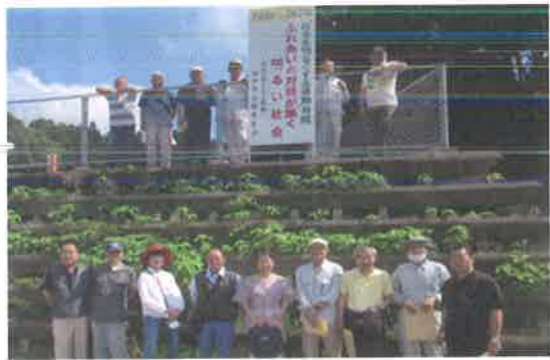
#### 宗像保護区優秀賞作品

- 小学校  
津屋崎小学校3年 いさ元 ひりり  
「心を整える十秒」
- 自由ヶ丘小学校6年 伊豆 有祐美  
「人が幸せになるために」
- 中学校  
自由ヶ丘中学校1年 伊賀崎 望  
「アイスクリームの罪と罰」
- 津屋崎中学校3年 西野 優華  
「犯罪や非行をなくすために」

作文コンテストは「社会を明るくする運動」の一環として、日常の家庭生活や学校生活の中で犯罪や非行などについて考えたこと、感じたことを書き、理解を深めてもらうことを目的として行なわれています。本年度もコロナ禍の中で、宗像市、福津市の小中学校全校から多数の応募をいただきました。ご協力ご指導くださいました先生方や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



### 「社会を明るくする運動」の活動内容



「社会を明るくする運動」で看板設置

#### 除菌ティッシュを配布



自由ヶ丘小学校で作文指導後の記念撮影



「社会を明るくする運動」でゲストティーチャーとして招かれる

その人から、いちごアイスが届いたそうです。祖母はその人が立ち直ったと働いていることが嬉しかったそうです。インターネットで保護司について調べてみると「保護司には様々な職業の人が参加している」と法務省のサイトに書いてあり、別のサイトには「日本には約四万八千人の保護司がいる」と書いてありました。全国保護司連盟のホームページには、「保護司になれる人数の上限は法律で五万二千五百人とさだめられている」と書いてあり驚き

#### 宗像保護区最優秀賞 (中学生の部)

#### まずは自分から

宗像市立玄海中学校  
三年 梨羽 美聖

私は、小学校低学年のときから警察官になることが夢でした。今でも町のみんなを犯罪から守って笑顔であふれる街にしたいと思っています。だから、誰かを傷つけたり、だましたりする人たちは許せませんし、社会へはもどつてくなくていいのではないかと、心の片すみでは少し思っていました。

でも「社会を明るくする運動」をきっかけにインターネットで刑務所を出所した人たちについて詳しく調べて、罪を犯した人全員に対してその考えをもつのは間違いだと気づきました。

さらに調べていくと、一度刑務所に入ってしまうと出所したときに仕事に就くのが困難になるということが分かりました。出所して就職できる人はとても少なく仕事に就けなかった人のほ

ました。私は、この二つの文章を読み、祖母の話を聞くまでは保護司というボランティアがあることも知りませんでした。でも調べ始めてから犯罪や非行をした人達の社会復帰を支える活動があることやその活動にたくさんの方が協力していることを知りました。私も保護司のみなさんのようににはできないかもしれないけれど、周りの友達や他の人達を支えていけるような人になりたいと思います。

ほとんどはまた犯罪に手を染めてしまふ。まさに負のループだと思えます。何回も警察につかまったり、刑務所に入ったりするとどんどん仕事に就けなくなってしまう。犯罪は減らないし、刑務所で罪をつぐなつてこれからはがんばって生きていこうとしている人の希望もなくなってしまう。出所した人が社会復帰をして犯罪を減らすために私たちができることの一つは偏見をもたずに、理解を深め共に生きていくことだと思います。出所した人の中にはしっかりと罪をつぐなつて同じ過ちを犯さないように、正し

